

天文教育

2021

9

*Publications of the Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy
(PJSEPA)*



〈特集〉近畿支部会 ～天文学史・天文民俗学とその教育普及利用～

〈投稿〉UDON を使った原始星・恒星からの X 線フレアの解析／

オリオンはどこから？ ほか

一般社団法人 日本天文教育普及研究会

本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます(共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします)。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主な内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト(要旨)には英文も付けてください(英文は審査通過後に追加も可)。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1~2ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」とともにご投稿ください(写真のみでも構いません)。
7. **情報コーナー(各種会合・イベントの告知など)**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日(奇数月下旬)にご留意ください。

・**締め切り**：1は随時受け付け、2~7は偶数月(発行の前月)15日です。投稿先は post@tenkyo.net です。

・本誌に掲載された記事(上記1~6および7の一部)は、当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開いたします。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。

・**広告掲載**を希望される方は事務局(jimu@tenkyo.net)までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000-、半ページ ¥12,000-、1/4 ページ ¥7,000-、チラシの折り込み ¥20,000-です。

【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：post@tenkyo.net

表紙の言葉

天空のリボン

2021年8月27日20h10m, Canon EOS R5, EF8-15mm F4L
フィッシュアイ USM, F4, ISO10000, 60秒露光, 撮影地:
八方尾根丸山ケルン(長野県白馬村)

撮影・解説：大西浩次

星空にも秋の気配が感じられるようになってきました。宵のころ、北東の空から立ち上がる秋の天の川が、天頂付近の夏の大三角の間を通過し、夏の天の川として、南西の空に垂直に落ちてゆきます。その先には、さそり座が天の川に押しつぶされそうに横になっています。北の空を見ると、北斗七星が水汲み状態で下方通過に向かい、淡い秋の天の川の中のカシオペア座と、教科書の図のような光景が見られます。そうして、東の空には、暗い星たちで作る秋の星座たちが昇っています。

いま、こんな東の空に、2つの明るい星が輝いてい

ます。8月20日に衝になったばかりの「満木星」の明るい木星が「真夜中の明星」として輝いています。そうして、その右には8月2日に衝を迎えた土星が輝いています。さて、この木星や土星は、約12年と30年で公転しています。以前に紹介したように、昨年2020年の年末には、この両者がくっついて見えるほど超接近しました。それから約9か月間で、木星は土星を追い越し、このように離れて見えています。

ところで、天頂付近の夏の夏の大三角と木星・土星を見ると、なのか形が見えませんか。そう、わし座のアルタイルと木星、土星で三角形を作ると、ちょうど、アルタイルを中心に大きなリボンの形に見えるのです。ええ? 「ちょうちょ」「ちょうネクタイ」「リボン」……子供たちだといろいろ思いつきますね。ちなみに、東の空低くフォーマルハウトも光っています。これもつながると……。ちょうどいま、今年の秋の限定のアステリズム「天空のリボン」がお勧めです。